熊本保健科学大学
週刊 NEWSLETTER
2022. 7.22
第 158号
発行　入試・広報課

本年度最初のオープンキャンパスが７月17日（日）、午前・午後の２部構成で開催され、高校生と保護者を含め合計651人（午前383人、午後268人）の参加がありました。午前・午後とも学科ごとのオリエンテーションと学科説明でスタート。その後、各学科が趣向を凝らしたプログラム（模擬実習）を実施しました。キャンパステラスでは、ピアサポーター14人が、学校生活や大学の授業、アルバイトなど、訪れた生徒や保護者の質問に親身に応じていました。この日、運営にあたったのは協力学生105人を含む194人。写真で１日を追いました。【２面に続く】

オープンキャンパス　点描

熊保大の魅力全開

写真上は医学検査学科のオリエンテーションに参加した生徒や保護者たち。同右はあいさつする竹屋元裕学長

「ナイスシュート！」。アリーナでは、リハビリテーション学科理学療法学専攻がトレーニング機器や計測器を紹介。「車いすバスケタイムトライアル」コーナーでは、高校生が真剣な表情でゴールを狙っていました

入試・進学相談コーナーは来訪者が多く、時間を延長して対応しました

オープンキャンパス　点描

見て聞いて大学実感

医学検査学科の「血液を見てみよう」のコーナーでは、顕微鏡を通して正常な血液と白血病細胞を見比べていました

リハビリテーション学科言語聴覚学専攻のコーナーには、子どもの言語発達遅滞を検査するためのアイデアあふれる道具の数々が展示され、学生たちが説明に立ちました

看護学科の「実習室なるほど体験ツアー」では、筋肉注射練習用の人体モデルなどの練習用具も紹介されました。高校生たちが実際に触れて、“ナースのお仕事”を実感していました

キャンパステラスでは、14人のピアサポーターが高校生や保護者からのさまざまな質問に答えていました。先輩たちの優しい応対に接し、生徒たちは安心した様子でした

リハビリテーション学科生活機能療法学専攻による「スプリントを作ってみよう」では、樹脂製の突き指用装具を実際に作っていました

健康・スポーツ教育研究センター レポート

〝もろ刃の剣〟厚底シューズ

高校生にケガ予防トレーニング指導

健康・スポーツ教育研究センターの鏑木誠講師、枝尾久美講師が７月13日（水）、全国トップレベルにある九州学院高校の陸上部員に「カーボンプレートシューズ（CPS・厚底シューズ）によるケガの予防トレーニング」と銘打った実技指導を行いました。

２人によると、厚底シューズなどの最新用具は、試合では欠かせない『武器』となる一方で、自分のフォームや筋力レベルに見合ってないと故障リスクも生じやすい〝諸刃の剣〟でもあります。特に成長期で骨形成や筋力が未熟なジュニア世代のアスリートにとっては、接地の衝撃や反発力に耐えうる股関節周囲筋や体幹筋を鍛えるための補強トレーニングが欠かせないということです。

２人は同校グラウンドで男女40人の部員に対し、ケガ予防の重要性を説いた後、補強トレーニング法を指導。猛暑にもかかわらず、高校生らは集中して取り組んでいました。

（健康・スポーツ教育研究センター 益満美寿）

写真上は、九州学院高の陸上部員を前にトレーニング法を実演指導する鏑木講師。同下は、選手一人一人にアドバイスする枝尾講師

言語聴覚学専攻３年授業

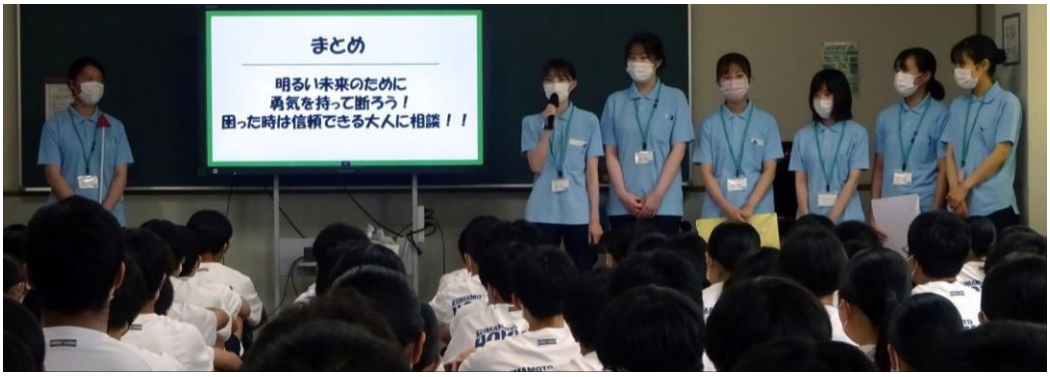
吃音の実際　当事者家族に学ぶ

「きつおん親子の会」代表の吉田政美さん＝**写真**＝を招いての「吃音・流暢性障害学」（リハビリテーション学科言語聴覚学専攻３年、小薗真知子非常勤講師）の講義が７月11日（月）に実施されました。

吉田さんは「吃音とは話し始めのタイミングで起こる障害」と説明した後、自身の息子さんを例に具体的な症例を話しました。その際「何が言えて何が言えないのかを把握することが重要」で、吃音がある人にとっては「周りが吃音をわかっていると助かる」とも話しました。

また、吃音が出る人にとって「自分の吃音を理解してくれる人が家族以外に１人いて欲しいと思っている」とした上で、「その人に寄り添える言語聴覚士になってほしい」と呼びかけました。（安部悠介）

中学生へ薬物乱用防止を訴える



北部中生徒に、たばこや酒の害について説明する学生たち

保健師コースの20人　北部中で３年ぶり対面“教室”

６月28日（火）、６月30日（木）、７月12日（火）の３日間、看護学科４年の保健師選択学生20名が、熊本市立北部中学校で薬物乱用防止教室を実施しました。

１年生には「明るい未来にたばこは必要？」、２年生には「お酒と距離をとろう～なぜ20歳未満の人がお酒を飲んだらダメなの？～」、３年生には「薬乱と一生ソーシャルディスタンス」をテーマに、薬物の健康への影響を説明し、誘われた時の対処方法を実演しました。

同教室は「学校・産業保健」科目の学外演習として毎年開いています。コロナ禍以降はZoomで実施しており、対面での開催は３年ぶりとなりました。本学の西村眞衣さんは、「初めての対面での実施ということもあり、とても緊張したが、中学生が真剣に話を聞いてくれたため、自分も一生懸命説明したいという思いになった」と話していました。また、上村彩華さんは、「中学生が書いてくれたアンケートから、理解度やどのくらい集中して聞いてくれたかがよく分かった。特に印象に残ったのが、『（タバコは）かっこいいと思っていたけど、絶対吸いたくない』という感想。少しでも中学生の人生の役に立つお手伝いができたと思うと嬉しかった」と語っていました。

（看護学科　荒木善光）

脇　蓮太郎さん（リハビリテーション学科理学療法学専攻３年）

競技体験し実感「壁はないんだ」

車いすテニス大会 運営支える

７月２日（土）、３日（日）の２日間、熊本市のパークドーム熊本で行われた第10回火の国杯争奪車いすテニス九州大会でボールパーソンを務めるとともに、競技を体験してきました。

ボールパーソンとしては、選手にボールを渡す時、手渡しが良いのか、投げた方が良いのかを迷いました。試合中にも関わらず、選手の方から優しくアドバイスしていただき、とてもスムーズに行うことができました。

体験会では、コートの摩擦が大きい分、力強く漕がなければいけないこと、それに加えてラケットを把持したまま駆動するなど、車いすでコート内を自由に動くことがどれほど大変なのかを身をもって感じることができました。

特に学びが大きかったのは、障がいを持った人に対する考え方です。今までは、どこか特別視してしまうこともありましたが、特別なことは何もなく、そこに壁は無いんだと、実際に関わることで見えてくるものがありました。

貴重な体験ができてとても勉強になりました。またぜひ参加したいです。

開会式後、写真撮影をおこなう選手、ボランティアと事務局の皆さん

今週の1枚

オリジナルグッズ

17日（日）のオープンキャンパスでは、来学者のためにオリジナルグッズが用意されました。スープカップ付きランチボックスと、かわいいクマの絵があしらわれた布製エコバッグです。レストラン入り口に開設された引換所では、担当職員・学生の皆さんが次々と訪れる高校生たちの対応に追われていました。（NL編集班）